



関東工場で実施した「ピオトープでSDGs」クイズラリーの様子

地球に笑顔

地球の笑顔のために、環境負荷を低減

グループ全体で環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、豊かな地球環境と未来の笑顔を守ります。

6 安全な水とトイレを世界中に	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナーシップで目標を達成しよう

「地球に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからもご覧いただけます。

<https://www.maruchan.co.jp/csr/environment/index.html>

環境対応の推進

主な取り組み

- 1 地球温暖化対策
- 2 生物多様性の保全
- 3 水資源の保全

地球温暖化対策

気候変動の大きな要因となる地球温暖化に関連する環境負荷の低減に向け、生産活動だけではなく、資材調達や物流においても使用資材や、CO₂排出量の削減など継続的に取り組みを実施しています。工場では、製造工程でのCO₂排出量、冷蔵倉庫では、フロン冷媒の漏洩量の削減に向けた取り組みなどを行っています。商品の配送については、積載効率の向上や、商品の安定供給によるイレギュラー配送の削減等により、使用トラック台数を減らすことで、環境負荷の低減につなげています。また、新規施設の設計、建設にあたっては、稼働開始後の環境負荷が少ない設備を採用するなど、環境への影響にも配慮しています。

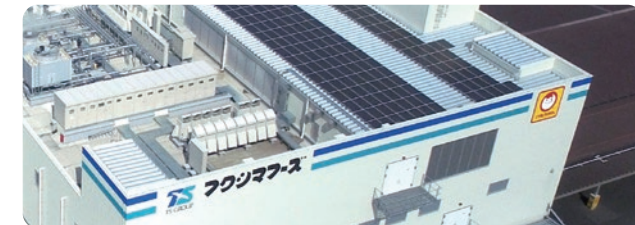


2020年4月より稼働した石狩新港物流センター（自然冷媒を採用）

CO₂排出量削減への取り組み

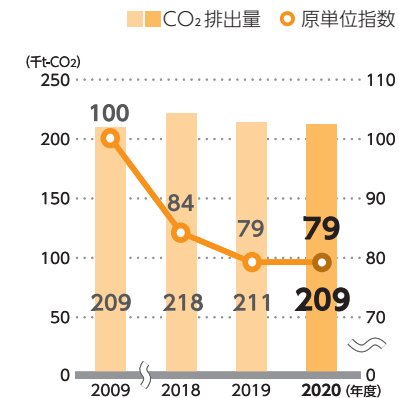
CO₂の排出量を減らすために、工場ではボイラー燃料を重油から天然ガスへ転換し、一部ではバイオマス発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用しています。各事業所では、省エネタイプの高効率機器の導入や、消費エネルギー量の少ないLED照明、営業車のエコカーへの切り替えなどを実施しています。その他、製造機器・冷凍機の効率的な運転や、事務所での不要時の消灯、エアコンの温度設定の徹底、エコドライブの推進などを実施しています。また物流面では、CO₂ガス排出による環境への負荷を考慮し、

状況に応じて鉄道や船舶等、輸送モードの選択を行っています。その他、空車運行トラックの削減や、他の食品メーカーとの共同配送も実施して、効率的な輸配送の実現に向けて取り組んでいます。



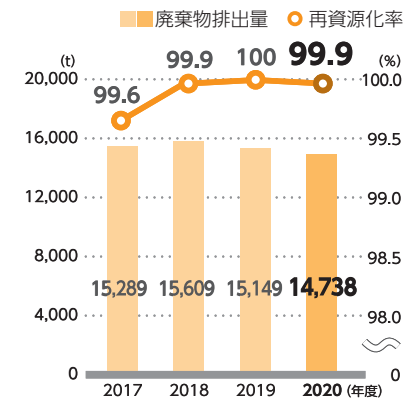
フクシマフーズ(株)の太陽光パネル

CO₂排出量と売上高原単位の推移



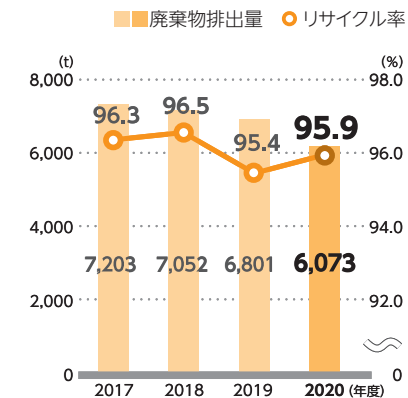
各事業所での省エネ推進やフロン漏洩削減取り組みにより排出量はやや減少しましたが、原単位はほぼ横ばいの状況となりました。

産業廃棄物排出量と再資源化率の推移



製造の安定化や一部工場での製造減により排出量は減少しましたが、埋め立て処分が発生したため、再資源化率は99.9%となりました。

食品廃棄物排出量とリサイクル率の推移

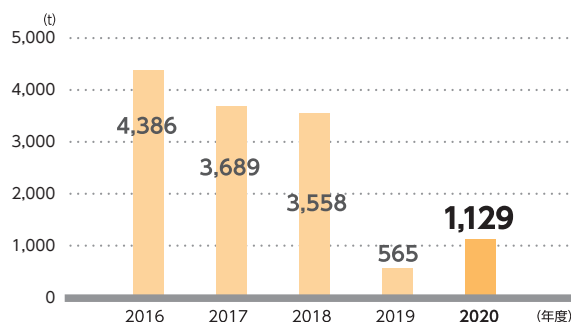


排出量は各工場での削減推進や一部工場での製造減により減少し、リサイクル率は目標値95%以上を継続しています。

フロン漏洩量削減への取り組み

2015年に施行された「フロン排出抑制法」に対応し、冷蔵倉庫においては温暖化への影響が少ない自然冷媒（アンモニア・CO₂）機器への切り替えを計画的に進めています。2020年度は舞洲冷蔵庫、湘南東洋（株）、スルガ東洋（株）の設備の交換を行いました。各事業所においては冷凍冷蔵機器および空調機器の点検・整備を徹底し、温暖化への影響の大きいフロン冷媒の漏洩防止に努めています。

● フロン漏洩量推移（CO₂換算）（東洋水産（株）単体）



2020年度の東洋水産（株）単体でのフロン漏洩量については、老朽化の進んだ空調機器等からの漏洩が増加した影響を受け、昨年度よりも漏洩量が増加しました。

生物多様性の保全

水産食品事業は当社創業の事業であり、海洋資源の保全は重要な使命のひとつだと考えています。河川や海岸の清掃活動をはじめ、様々な取り組みを行っています。

稚魚放流活動

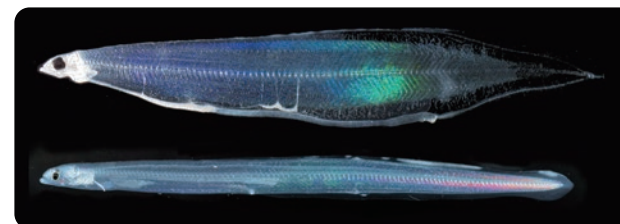
1996年より田子工場周辺の海で、水産資源の保護・育成と水産業や観光業における地域活性化の一助となることを目指して、稚魚放流活動を行っています。カサゴやヒラメなど、これまでに約40万匹の稚魚を放流してきました。毎年、近隣住民の皆さまや西伊豆町の伊豆海認定こども園の園児にご参加いただいています。放流に先立ち、園児を対象として田子工場で製造している「かつお節について」と、静岡県水産・海洋技術研究所による「カサゴについて」の食育講座も実施しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、規模を縮小して実施しました。



西伊豆町での稚魚放流の様子

ウナギの養殖研究

1995年にウナギ、ハモ、アナゴなどの魚類の生態調査、人工的な産卵・孵化・仔魚飼育の可能性を探る研究機関「無足類研究所」（愛知県田原市江比間町）を設立しました。そして1996年、愛知県渥美半島の伊良湖岬に近い立地にちなみ、社名を「（株）いらご研究所」に改め、本格的な研究活動を開始しました。いらご研究所では、設立以来、ウナギの完全養殖の研究に取り組んでいます。2010年には「いらご研究所で生まれた仔魚を親魚まで育てて産卵させ、次世代の仔魚を得る」というウナギの繁殖サイクルの確立に成功しました。現在6世代目の仔魚を飼育しており、さらに完全養殖の量産化・事業化に向けて取り組んでいます。



（株）いらご研究所で産卵後孵化し、シラスウナギに変態中のウナギの仔魚（上）・変態後のシラスウナギ（下）

水資源の保全

東洋水産グループでは、持続可能な水資源利用を環境対策の推進における取り組みテーマのひとつとしています。

東洋水産グループの各工場では、水の使用量や排水量を継続的に管理し、使用量の削減に努めるとともに、工場からの排水を微生物処理により浄化して放流しています。埼玉工場では、設備の運用方法の改善により、生態系への影響がないよう、排水の温度を下げるなどして、環境への負荷を小さくしています。また、フクシマフーズ（株）では節水および排水削減への取り組みとして、排水処理の管理方法の見直しや製造工程で使用している冷却水の再利用、節水ノズルを使用した洗浄などを行っています。



埼玉工場の排水処理設備